

博報財団 第 11 回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	DAVAA Oyungerel(ダワー オユンゲレル)
在住国名	モンゴル
所属・役職	モンゴル国立大学 法学部 日本法教育研究センター 准教授
招聘回(招聘研究期間)	第11回 (2017年3月1日～2017年8月30日)
受入機関	東京外国語大学
招聘研究テーマ	日本語教育における批判的思考力の育成の検討
研究目的	本研究では日本国内で大学進学を目指す学生を対象に行われている高等学校における批判的思考力の育成方針や授業の成り立ちなどを調べた上、学習指導要領に基づく国語の授業において採用されている読解指導を検討し、それを参考に外国語としての日本語教育における批判的思考力の育成につながる学習目標や到達するための学習項目を提案することを目的とする。
<p>研究成果概要：</p> <p>モンゴルの日本語学習者は全般的に読解力が弱い傾向にある。その原因は日本語語学の問題より以前に母語の読解力が弱いためだと考えられている。そこで、批判的思考力の育成には批判的読解力つまり読解力の育成が重要な役割を果たすため、その指導方法を探ってみた。</p> <p>読解力は初中等教育の段階で育成されると考えられているため、日本の小中等教育における読解力の育成に重視されている項目について調べた。そして小中高等学校の国語学習指導要領における読解ストラテジーの扱い方とその導入方法について実際に東京都内の小中高等学校の国語の授業参観と国語担当教員にインタビューを通し、留意する項目について明らかにした。また、留学生向けの日本語読解授業の到達目標一覧と授業見学を通して、読解力の育成における学習項目と読解ストラテジーとモンゴルとの現状との比較と検討をした。</p> <p>その結果、モンゴルの日本語教育における批判的思考力を育成する第一歩として、読解授業における教授可能性として次のことを提案した。まずは、学習項目と読解ストラテジーをレベルごとに明示するのみならず、縦と横の連携が取れるようなスパイラル式な組み立て直すこと。次に、読解ストラテジーは内容理解のほかに理解進化と評価判断のためのストラテジーに区別して、批判的読解が弱い学習者には、特に後者の 2 種類を注意して指導すること。それから、読解ストラテジーの意識化と活性化を図るために、日本語ゼロ初級の段階で母語による読解を行うこと。つまり、日本語で読む前から①読解とは「言語形式」のみならず、その「中身」を読み取り、意図とすること、それに対する自分考えも含められるという意識、②内容を読み取る意識の習慣化を図る。</p> <p>展望：</p> <p>今回は読解力の育成に重点をおくことにより、批判的思考力の育成の第一歩をしたが、聴解やライティングとの連携について触れなかった。今後は批判的思考力の育成を軸にして、日本語の読解と聴解とライティングを横の連携を視野に入れる。</p>	